

令和3年度

教育課程特例校における特別な教育課程

【実施状況報告】

令和4年8月
箕面市教育委員会

1.概要

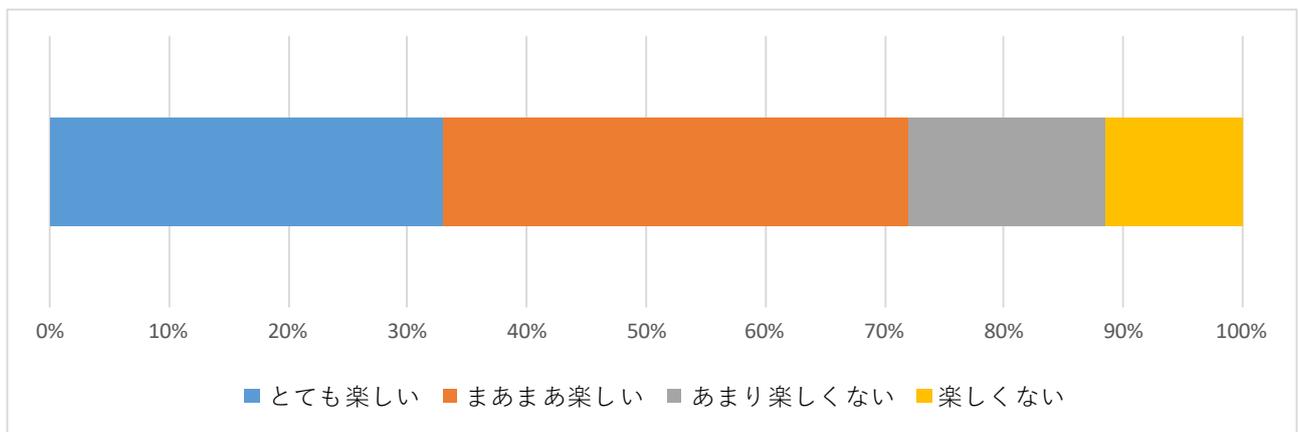
箕面市では平成27年4月から教育課程特例制度を活用し、箕面市立中学校の全学年において、「英語コミュニケーション科」を設定し、全ての学年で毎日英語に触れる取り組みを行っています。

市内の中学校では、年間140時間（週4時間）の外国語科（英語）に加えて、総合的な学習の時間から年間30時間削減し、「英語コミュニケーション科」の授業時数に充てています。英語コミュニケーション科を週に1時間程度設定することで、毎日英語に触れられる環境作りを行うことができます。特別の教育課程を実施することで、9年間を通して子どもたちが毎日英語に触れられる環境作りを行っています。

2. 箕面市の生徒アンケートの結果

○英語を使ってコミュニケーションを図ることは楽しいと思いますか。

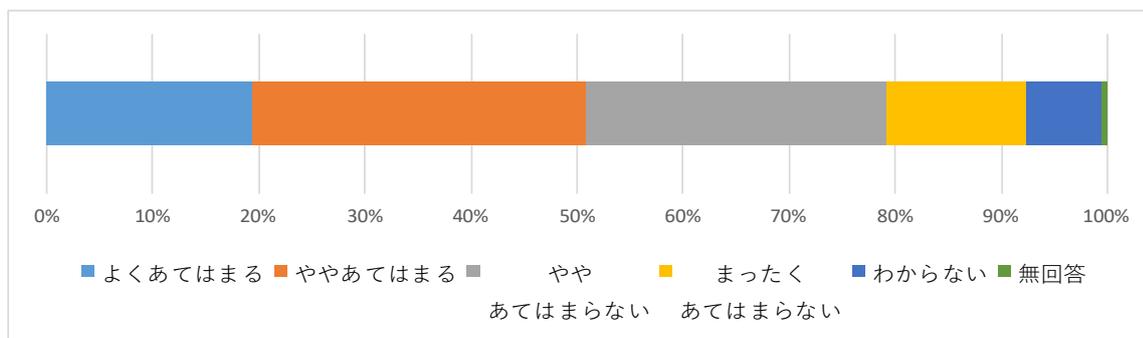
	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
1年生（7年生）	29.6	40.0	18.0	12.2
2年生（8年生）	29.8	40.5	18.4	10.4
3年生（9年生）	39.1	35.8	13.2	11.5
平均	32.8	38.8	16.5	11.4



3.保護者・学校関係者からの評価

○子どもは、英語でやり取りしたり、発表したりすることに、前向きに取り組んでいる。

	よくあてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	まったくあてはまらない	わからない	無回答
合計	19.4	31.5	28.3	13.3	7.1	0.5



- ・今年度の1年生（7年生）は5，6年生の2年間、教科として英語を学んでいる。「書くことができない」「読めない」と、英語を苦手とする生徒はクラスに数名は必ずいるものの、どの生徒も英語の音には慣れ親しんでいるように感じる。
- ・英語の会話の概要の聞き取りができ、ALTとの会話を楽しむ、内容を聞き取ろうと粘り強く取り組む姿がある。こういった姿が英語コミュニケーション科の授業でも発揮され、会話中心の授業に楽しんで参加できている。
- ・先生方も音楽や映像を使って、子どもたちが英語を楽しめるような工夫をしている。
- ・ALTが自分の生まれ育った国の歴史や文化を子どもたちへ話してくれることで子どもたちが外国についての興味をもてるようになってきている。
- ・英語コミュニケーション科の設定により、生徒たちが場面・状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりする場面が今まで以上に多くみられるようになった。

4.今後に向けて

- ・今後も、英語コミュニケーションに慣れ親しみ、スピーキング能力・リスニング能力を高めるために各校に3名以上配置されているALT（英語指導助手）を中心に授業を展開していく。授業以外でも、生徒がALTと英語でコミュニケーションをとる機会を増やし、自然と英語に親しみがもてるようにする。
- ・全国と比べて、英語が楽しいと感じている割合や、身に付いている英語力は高いが、今後もより多くの子どもが、英語に触れることが「楽しい！」と感じ、自主的に英語力が身に付けられるような取り組みを進める。